

## (8) 循環器病

### 【目標値達成の状況】

達成状況	指標定義	指 標	計画策定時 (H12)	現状値 (H17)	目標値	
					(県)	(国)
×	行動	成人1人当たりの1日平均カリウム摂取量	2.9g	2.5g	3.5g以上	3.5g以上
-	健康	成人男性で高血圧の人の割合	8.3%	-	6.6%以下	-
-	健康	成人女性で高血圧の人の割合	9.7%	-	7.7%以下	-
	健康	成人男性で高脂血症の人の割合	20.3%	19.4%	10.2%以下	5.2%以下
×	健康	成人女性で高脂血症の人の割合	18.6%	21.6%	9.3%以下	8.7%以下
	行動	成人で健康診断を受けている人の割合	70.7%	73.9%	80%以上	6,860万人
<b>再 掲</b>						
	行動	成人1人当たりの1日平均食塩摂取量	12.1g	11.5g	10g未満	10g未満
×	健康	20～60歳代男性で肥満の人の割合	29.4%	30.7%	15%以下	15%以下
	健康	40～60歳代女性で肥満の人の割合	24.4%	18.1%	20%以下	20%以下
	行動	1日30分以上の運動を、週2回以上実施し、1年以上持続している成人男性	19.9%	20.5%	30%以上	39%以上
	行動	1日30分以上の運動を、週2回以上実施し、1年以上持続している成人女性	16.4%	19.4%	27%以上	35%以上

高血圧に関しては計画策定時と調査方法が異なるため現状値が把握できていない

### 【指標の動向】

(数字は指標数)					
達成( )	(計画策定時+目標値)/2以上の伸び( )	(計画策定時+目標値)/2未満の伸び( )	横ばい・悪化(x)	不明	指標合計数
0	0	2	2	2	6

指標は6つですが、そのうち若干改善された指標が2項目、横ばいまたは悪化した指標が2項目、調査方法が異なったため現状値が不明なものが2項目です。

#### 1) 成人1人当たりの1日平均カリウム摂取量(×)

1日平均カリウム摂取量が2.9gから2.5gと減少しています。

##### <カリウム摂取の状況>

##### カリウム摂取量は全国よりは多いものの、計画策定時より減少している。

循環器病に影響のある栄養成分である食塩とカリウムの摂取量については、前者は減少、後者は増加を目標としています。食塩摂取量は12.1gから11.5gと減少しましたが、カリウム摂取量については、全国平均(平成16年国民健康・栄養調査)の2.4gよりも多いものの、計画策定時の2.9gから2.5gに減少しています(図39)。

#### 2) 成人男性で高脂血症の人の割合( )

##### 成人女性で高脂血症の人の割合(×)

成人男性は高脂血症の人の割合が横ばい状況にあり、女性の場合は、18.6%から21.6%と、計画策定時よりも若干増加しています。

**< 高脂血症の状況 >**

**高脂血症の要指導・要医療と判定された者は、男女とも4割を占める（平成16年度基本健康審査結果）**

高脂血症の要指導・要医療と判定された者の受診者に占める割合は、男女とも4割を超えており（図35）、年代別にみると、50歳代と60歳代の割合が高くなっています。

**3) 成人男女の高血圧の人の割合（調査未実施）**

**< 高血圧の状況 >**

**高血圧の要指導・要医療と判定された者は、男性で4割、女性で3割を占める（平成16年度基本健康診査結果）**

高血圧の要指導・要医療と判定された者の受診者に占める割合は、男性が40.0%、女性が32.6%（図36）で、年代別にみると、年齢が高くなるほどその割合は高くなり、70歳代では44.4%、80歳代では49.1%を占めています。

**高血圧の受診者が増加している（県国民健康保険診療報酬）**

平成12年と17年の5月の国民健康保険診療分の高血圧性疾患の受診件数は、95,384件から124,809件と3割増加しています（図37）。

**< 循環器系疾患の状況 >**

**循環器系疾患は、40歳代以降加齢とともに増加する（県国民健康保険診療報酬）**

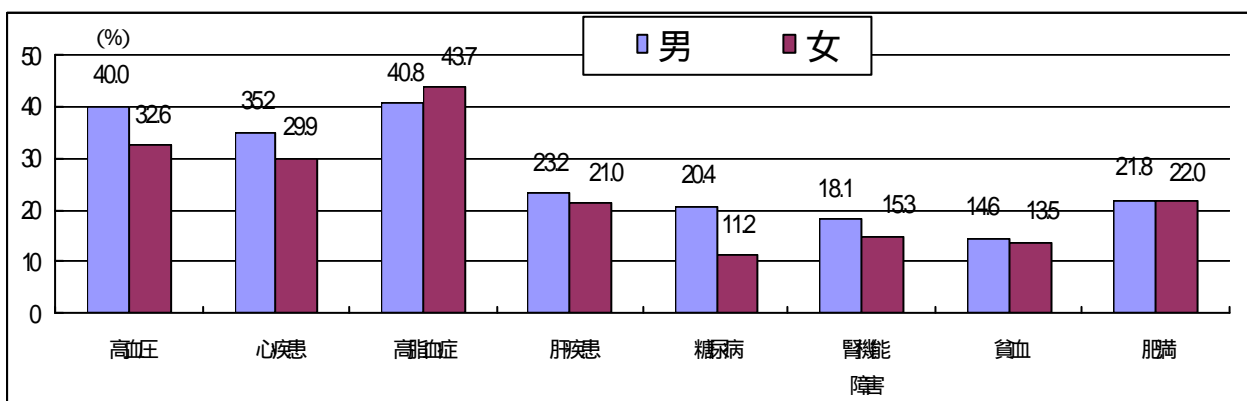
平成12年と17年の5月の診療分の循環器系疾患の年代別受診件数は、40歳から増加しはじめ、ピークの70歳代の77,736件まで大幅に増加している（図38）。

**【関係機関・団体の取組】**

- ・市町村や県医師会は、健康教室や健康フェスタのイベントを開催し、生活習慣病予防のための県民への普及啓発を行っています。

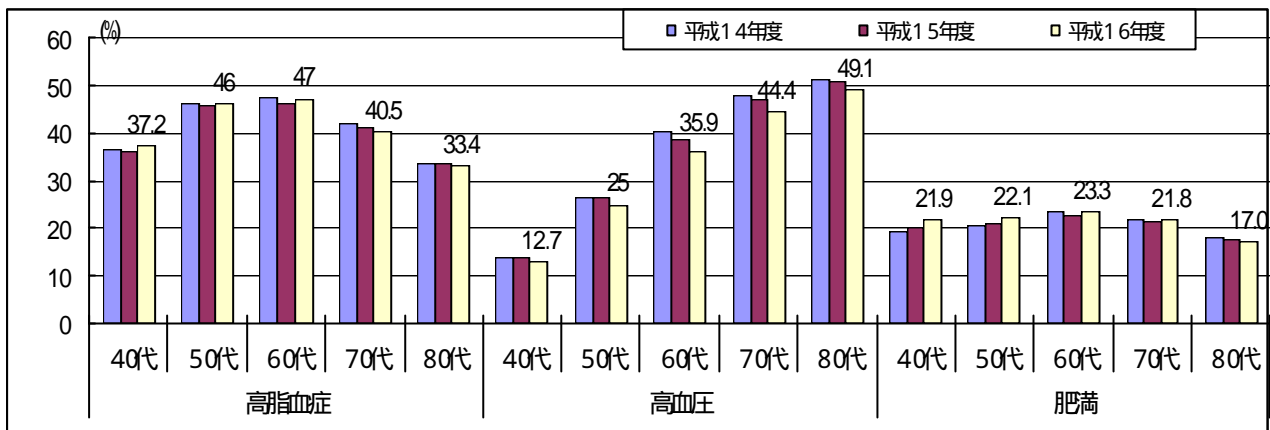
**【関係図表】**

図35 疾患別要指導・要医療者の割合 平成16年度基本健康診査結果



資料：鹿児島県保健福祉部「鹿児島県の生活習慣病」

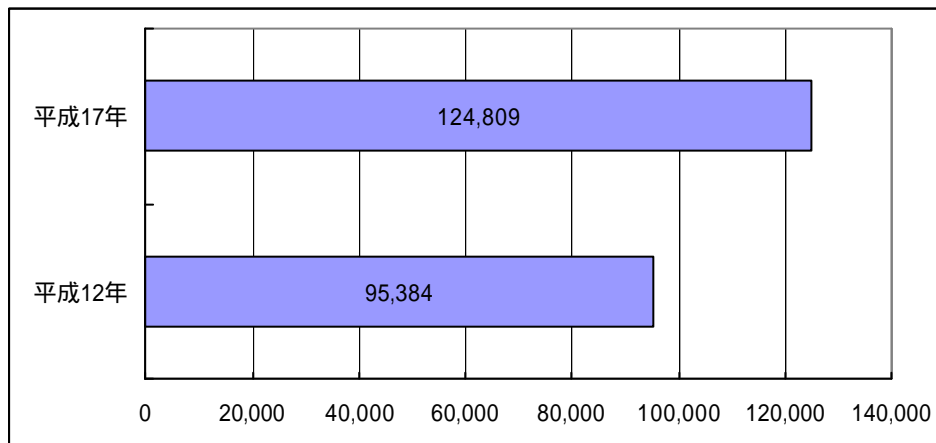
図 36 疾患別年代別要指導・要医療者の割合 基本健康診査結果



(データ表示：平成 16 年度)

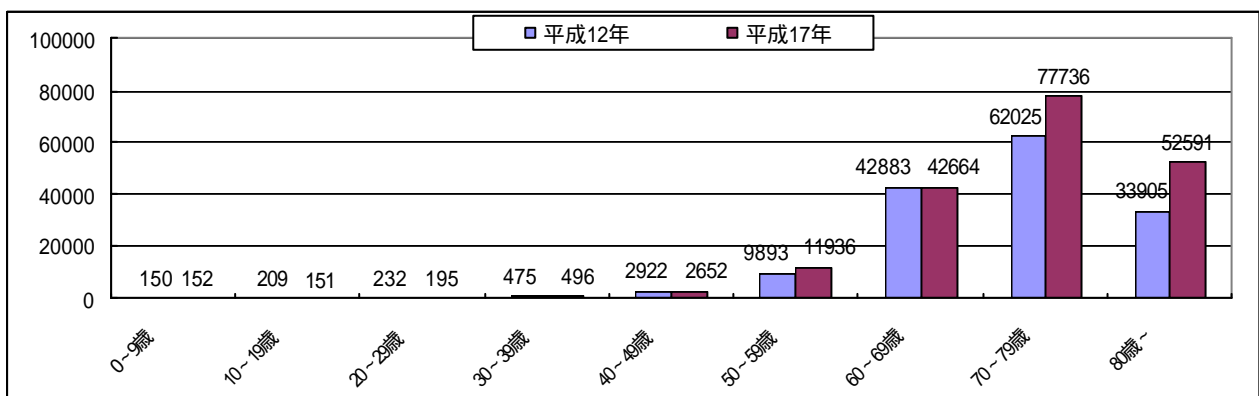
資料：鹿児島県保健福祉部「鹿児島県の生活習慣病」

図 37 高血圧性疾患の医療機関受診者数（5月診療分）



資料：鹿児島県国民健康保険団体連合会「疾病分類別統計表」

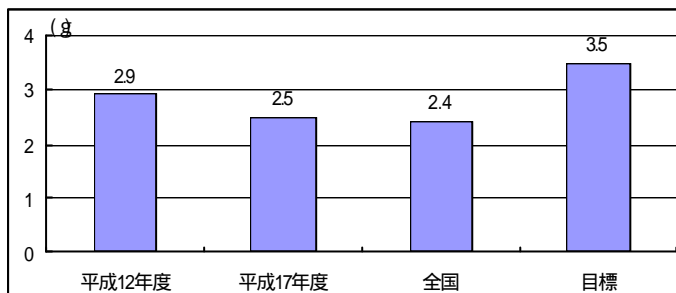
図 38 循環器系の疾患の年齢階層別医療機関受診者数（5月診療分）



\* 高血圧性疾患は、循環器系疾患の66.2%（平成17年）を占める。

資料：鹿児島県国民健康保険団体連合会「疾病分類別統計表」

図 39 カリウムの一日常平均摂取量



資料：平成 12 年度，平成 17 年度は，鹿児島県の  
栄養調査結果  
全国は，平成 16 年国民健康・栄養調査結果

## 課題

男女ともに，40歳代から高脂血症と判定された者は多いことから，若年層からの高脂血症に対する取組の強化が必要です。

無症状であることによる重症化を防止し，早期発見するために，健診の受診率を向上させることが必要です。

メタボリックシンドローム及びその予備群を把握し，重症化予防のための効果的な保健指導を実施することが必要です。

1日のカリウム摂取量が減少していることから，カリウムの摂取強化と循環器疾患予防のための栄養指導を行う必要があります。

健康診断の受診率の向上を図り，循環器病の早期発見，早期治療を進める必要があります。

65歳未満の脳血管疾患の10万対死亡率は，男女とも全国に比べて高く（第2章表4，5），標準化死亡比（SMR）も男女とも107.6であることから（第2章表1），脳血管疾患予防のための積極的対応が必要です。

## 今後の取組の方向性

### 1) 県民の行動

食生活の改善と運動の習慣化により肥満を防止する

メタボリックシンドロームに関する知識を習得する

高脂血症や高血圧の予防や治療に関する知識を習得し，早期発見・早期治療に努める

自分の健康に関する数値を知り，適正数値に向けた対応をとる

カリウムの摂取量を増やし，食塩の摂取を減らす

健康診断を定期的に受ける

### 2) 関係機関・団体の取組

職域において，健康診査の受診率の向上を図り，循環器疾患等の早期発見とその後の保健指導を強化する

保健・医療機関の連携を強化し，循環器疾患に関する治療や生活習慣に関する相談・指導体制を整備する。

健康診断を受けやすい環境や体制を作る

学校等教育機関において，小児期からの生活習慣に関する健康教育を推進する。

メタボリックシンドロームの概念を導入した啓発を行う

メタボリックシンドロームの重症化を防止する対策を講じる

メタボリックシンドロームの該当者及び予備群を把握する

3) 今後重点的に取り組む課題

健診による早期発見  
メタボリックシンドロームの概念の普及